

2024 年度広島医療社会科学研究センター・シンポジウム

「終末期医療の現在－看護学、 社会学、法学の視点から考える」

シンポジウム概要：

人生の最終段階の QOL の向上や Well-being の実現のために、終末期医療の過程では保健医療面のほか、生活上の諸側面や意思決定のあり方等、さまざまな課題への適切な対応が求められる。本シンポジウムでは、終末期医療の現状と課題について、看護学、社会学、法学の立場からの報告と学際的な意見交換、討論を通して、今後のあるべき方向性を探る。

日時：令和 7 年 3 月 29 日（土）13 時 30 分～17 時 30 分

場所：広島大学東千田キャンパス 未来創生センター M304
オンライン（Teams）併用

主催：広島大学医療社会科学研究センター・広島大学法学部共催

総合司会

孫 璐 氏 （広島大学大学院人間社会科学研究科助教）

開会挨拶

江頭 大蔵 氏 （広島大学学術院会議社会科学基礎教育領域長・
広島大学大学院人間社会科学研究科教授）

シンポジウム司会進行

浅利 宙 氏 （広島医療社会科学研究センター副センター長・
広島大学大学院人間社会科学研究科教授）

報告

- 1 「終末期医療・ケアにおける意思決定支援－老年看護学の立場から」
那須 佳津美 氏（広島大学大学院医系科学研究科講師）
- 2 「ケアのグローバル化と看取りの実際－イタリアにおける質的調査から」
福島 智子 氏（松本大学大学院 健康科学研究科教授）
- 3 「終末期医療（主に治療中止）に関わる法律とガイドラインの現在地」
新谷 一朗 氏（海上保安大学校教授）

閉会挨拶

吉中 信人 氏（広島医療社会科学研究センター長・広島大学
大学院人間社会科学研究科教授）

*入場無料 事前申込不要 どなたでも参加できます
オンラインは右の QR コードからアクセスしてください

